

学校法人 日章学園 鹿児島育英館中学・高等学校 学校評価 総括評価表

建学の精神		一. 道義に徹し 一. 実利を図り 一. 勤労を愛す				
学校教育目標		「自ら学ぶ意欲と豊かな心を持ち、個性や能力を發揮し、自己実現をめざす生徒を育成する」				
目指す学校		①豊かな環境で、感性と心を育てる学校 ②個性や能力を磨き、鍛え、伸ばす学校 ③温かい雰囲気を持ち師弟同行で歩む学校 ④地域に開かれ、誰からも信頼される学校	育てる生徒像 「常に英才たれ」 己を愛し、人を愛し、大志を持って生きる、実行の人	①志は高く、思いやりの心を持ち、前向きに生きる ②TPOに応じた明るく元気なあいさつのできる ③文武両道をめざし、何事にも粘り強く努力する ④心身共に健康であり、額に汗する勤労を愛す ⑤母校愛や郷土愛に燃え、地域、家族に感謝の念をもつ	①学習の仕方を丁寧に指導し、保護者と協働して、自学自習を定着させる ②学習意欲を高め、落ち着きを与える学級設営を工夫する ③美化意識の高揚を図り、整理整頓から始めて、無言作業を徹底する ④グループ活動の機会を増やし、言語活動を活性化し、自ら学び合う集団を育てる ⑤自己肯定感を高め、お互いのよさを認め合う学校行事、教育活動を積極的に展開する。	評価基準 4：十分達成できている 3：おおむね達成できている 2：どちらかという達成できていない 1：ほとんど達成できていない
重点目標	評価項目	具体的な方策	評価	成 果	課 題	
一 基 本 的 生 活 習 慣 の 確 立	望ましい生徒像は明確であるか	①明るく元気よくあいさつできるか	B	ア 体育コースを中心に、生徒たちは明るく元気なあいさつができている。 イ 生徒より先に挨拶することでモデルを示せるように取り組んでいる。	ア 礼法指導時は非常に良いが、時間がたつにつれ、雑になる姿が見られる。礼法指導のためでなく、自然な気持ちの良い、心からの挨拶が出来る生徒を育てる。 イ 挨拶ができる生徒とできない生徒の差が大きく、心の教育の徹底が必要である。 ウ TPOに応じた挨拶など、細かな点についての指導が必要である。	
		②お互いのよさを認め合う態度はできているか	B	ア 学活・HRだけでなく、授業でも生徒の作品や発表を評価する機会を設けており、賞賛とアドバイスが上手にできるようになってきている。 イ ポジティブな声掛けと雰囲気作りに励んだ結果、認め合う態度が見受けられる。 ウ 学年の成長段階に違いはあるが、学年なりに相互尊重もできている。	ア 相手の気持ちを考えた態度や言葉遣いができるように、今後も継続的な指導が必要である。 イ 悪いところを指摘するだけにとどまり、前向きな声掛けができていない場面がみられる。自分自身のことを振り返る時間を持たせ、自分の長所短所を分析した上で、他者の良さに目を向けさせる必要がある。	
	保護者等との連携はとれているか	B	ア 最近SNSなどもうまく活用している。 イ 育英館NOWや校長だより、学級通信、学級懇談会を通して、本校の教育を理解して頂けている。	ア 言葉など行き違い（勘違い）がみらることがある。特に、中学校では連携が必要である。 イ 生徒への連絡事項等が保護者へ伝わらない場面も多かった。担任に限らず中学部全体での連携があるとなお良いと思われる。		
一 基 本 的 生 活 習 慣 の 確 立	マナーやルールは守られているか	①J Rや通学バス利用時のマナーやルールは守られているか	B	ア 外部からの指摘もなく、生徒たちも交通マナーやルールをよく守っている。	ア これまでにも苦情がいくつか入ることがあった。生徒同士が気づき、注意しあえるようになるため、継続的な指導が必要である。	
		②情報セキュリティ等に関するモラル教育はなされているか	B	ア 授業でもICTを活用する機会が多いので、モラル教育について評価の1つとして加えているため生徒たちも意識して作品など作るようになってきている。 イ 情報に関する講演や授業（社会科・家庭科・道徳など）内でも指導されている。また、長期休み前にも事前指導を行っている。 ウ SNS等への投稿の危険性や、個人情報の投稿など、厳しく指導している。	ア SNSの利用法や使用時間等家庭でルールを設定するのが望ましいため、保護者への協力も定期的をお願いをする。 イ 今だにSNS等への警戒心が低い生徒がいる。今後も専門家の講演なども視野に、継続的な指導が必要である。	
	美化活動は適切になされているか	A	ア よく清掃され、校舎外（敷地内）がきれいになったと思う。定期的に花の手入れも実施している。 イ 愛校デーを定め、定期的に清掃をしている。美化活動をとおして、愛校心も育んだ。 ウ 無言作業の徹底と、自主的な取り組みが見られる。気がついた時に教室の棚など工夫して片付けてくれる生徒もいる。	ア 無言での作業への意識が低い生徒が見られるため、掃除への意識を徹底させる イ ほうき等掃除用具の使い方や、作業方法が分からない生徒が増えている、定期的に掃除についてのオリエンテーションが必要である。		
部活動	①部活動をとおして生徒の成長はみられたか	B	ア 英語のコンテストに積極的に参加して、結果を残せた。また、オンラインでの練習試合などにも参加できた。 イ 体育コースでは、挨拶が大きな声で出来たり、先輩としての自覚を持ったりする成長がある。 ウ 礼儀作法から自主性までの成長がたくさん見られた。	ア 入部率が低く、試合出場が難しい部もある。他校との合同チームを積極的に模索する。 イ 部活動中の挨拶ができない部もある。部としての礼法指導も必要。 ウ 体育コースの技術は上がり強くなったが、精神的な部分の成長が課題。部活での成長を学習活動や生活に生かし切れていない部分もある。		
	教育相談	A	ア スクールカウンセラーとの連携も取れており、ケガや病気、メンタル面も含め連携は取れている。 イ 生徒もよく相談に行き、適切に指導されていると思う。 ウ 問題が起きた時の解決法について随時相談したり、養護教諭と情報を共有し個々に応じた指導を行っている。	ア 精神的に弱い生徒が増える中、養護教諭との連携もだが、出身の小中学校とさらに、連携を強める必要がある。		

学習習慣の確立	年間指導計画は活用されているか	①シラバスに基づいた指導がなされているか	A	ア 全教科シラバスに基づいた指導が実施できた。また、中には進度よりも少し先を行き、応用や復習を取り入れている。 イ 新学習指導要領の高校1年生は年間指導計画を確認しながら取り組んでいる。	ア 新学習指導要領への取り組みを振り返り、さらに来年度の計画に反映させていく必要がある。 イ 定期試験の範囲や模試の対策に追われており、表現活動が疎かになっている。定期的にシラバスを見つめなおす必要がある。
	自己実現の基盤となる力	①主体的で対話的で深い学びとなる授業展開がなされたか	B	ア 特進コース、高校生はiPadを用いて。体育コースは対話型の授業を取り入れた。 イ 個別指導も行い、個々に応じて授業を展開している。	ア グループ活動やプロジェクト活動などに取り組んできたが、自己理解にばらつきが大きい。自分にあった学び方を見つけられるよう指導する必要がある。 イ 授業の際、生徒が受け身になることが多く、授業スタイルの見直しが必要である。 ウ 感染対策のため、グループワーク等ができない場面もあった。今後は通常に戻していく。
	英語教育の推進	②学習の仕方を指導し、生徒の自学自習を定着させることができたか	B	ア 小テストを行い定着を図り、毎日の課題に取り組ませている。 イ 学習方法などのアドバイスも行っている。 ウ 学力・進路検討会などを通して、職員同士連携を取って指導にあたっている。	ア 添削指導や個別指導で学習の仕方など指導している。授業の中でも自学できる力を身につけさせる取り組みが必要である。 イ 宿題をこなすだけでなく、家庭学習時間が少ない生徒が見られる。特に高校の学習時間は進学校レベルでない生徒もいる。
		①中学校で英検3級、高校生で英検2級取得に努めているか	A	ア 英語科の教員が、休み時間や放課後の時間を使い、熱心に1次対策に加え、2次対策を計画的に行っている。 イ 生徒・職員が同じ目標に向かい、努力する取り組みが行っている。	ア 共通テストでの利用など、英検の取得による受験でのメリットの周知をおこない、受験者増加を図る必要がある。また、それに合わせて合格率アップに努める。
②校内の掲示物や表示を英語で表記し、英語学習の環境作りに寄与しているか		B	ア 英字新聞を掲示し、更新するなど、英語を常に意識できるような環境整備している。 イ iPadの活用や外国の学校との交流が行われている。	ア 掲示物に関して、学級や学年により差が大きい。せめて、中学・高校それぞれで、共通の取り組みなどが見られるとよい。	
二学習習慣の確立	土曜錬成講座について	①学習教材や教師の指導法に工夫が見られるか	A	ア オンライン教材などの活用や新しい指導法を取り入れるなど、授業力の強化にも取り組んでいる。 イ 授業で扱えないこと（模試対策など）を中心に、時間をかけて取り組めた。また、中学生には高校の範囲まで指導できている。	ア 生徒の学習状況の変容などを調査、研究を行い、さらに工夫し学力向上に取り組ませる必要がある。 イ 学力向上のため、中3・高1合同授業のように、様々な形態の授業を積極的に取り組む必要がある。
		②生徒は意欲的に取り組んでいるか	B	ア プロジェクト活動などを通して、通常授業での英語学習へのモチベーションにつなげている。 イ グループ学習など生徒も意欲的に取り組んでいる。 ウ 今年度より、学期に一度、中3・高1の合同授業を取り入れ、幅の広い学習に取り組んでおり、意欲向上につながっている。	ア 生徒の意欲を感じない部分もみられ、普段の学校生活に比べ、欠席率が高いため、より効果が上がるように、職員間でも研さんが必要である。
	体育コース（中学校）	①各種大会で実績をあげられるよう指導がなされているか	A	ア 両部は、Aチーム・Bチームに分けることにより、競争意識を活性化させている。 イ 両部ともに休みなく練習に励んでおり、結果を出す指導がなされている。	ア 技術的な指導はもちろんのこと、精神的な忍耐力や負けず嫌いな心を育てる指導を引き続き模索する必要がある。
	基礎学力定着のための10分間テスト	①不合格者への放課後指導がなされているか	A	ア 放課後及び休み時間を利用し、追試・補講などを行うなど、それぞれの教科にあった形で取り組まれている。	ア ただ、やり直しをさせるだけの対応だけでなく、個別指導や放課後指導を充実させる取り組みが必要である。
三進路の実現	高等学校の個別指導について	①3年間を見通した指導がなされているか	A	ア 面談などで、学習方法をアドバイスすることにより、添削指導や個別指導を積極的に取り組まれている。 イ 苦手科目のフォローや質問などにも、空き時間を利用し、対応している。 ウ 模試を通して、学力検討委員会を随時行っている。生徒の将来の夢を共有し、それぞれの生徒に合った指導をしている。	ア 個別に寄り添った進路指導のため、保護者と担任との連携も大切。中には継続しなかったり、申し出てこない場合もあり、当事者間で認識のずれもみられる。 イ 学校職員として生徒が質問しやすい環境づくりに取り組む必要がある。
		②生徒の志望校合格対策として機能しているか	A	ア 英検準1級を取得した生徒の共通テストは英語が満点扱いになるなど、普段の指導が合格へとつながっている。 イ それぞれの志望に合わせた対策を行うなど、特に小論文対策や面接指導など充実させている。	ア 大学入試改革により、各大学の試験も多様化している。それに合わせ、教科横断型の指導体制を整えることが急務である。
四生徒募集	高校生の進路指導	①主体的にライフデザインを考えられるような仕掛けが工夫されている	B	ア 進路講演会を多数、計画・実施している。また、社会人の卒業生なども積極的に話をしており、身近なモデルの提示に務めている。 イ キャリアガイダンスなどの外部イベントにも、様々な活動を通じて、生徒は青写真を描いている。	ア 受験指導が主になっている。大学合格がゴールではなく、その先の憧れる職業人などとの接点を作っていく必要があり、卒業生のモデルなどを示したい。 イ 総合的な学習の時間を活用しているが、生徒が課題を設定するなどの面が弱い。普段の授業から取り組む必要がある。
		②高3生全員が志望校に合格するように指導がなされているか	A	ア 個々の実態に応じた進路指導を行っている。最後までやり抜く力をつけさせている。 イ 近年多様な入試形態にも、個別指導を中心に対応し、実績につなげている。 ウ 中高分け隔てなく、それぞれの教員が声をかけて励ましている。	ア 積極的な声掛けなど行われているが、生徒の意欲と周りの認識に大きな開きみられる面もある。学力検討会及び進路検討会の持ち方も、常に改善をする必要がある。
	中学生の進路指導	①進路計画に沿った指導がなされているか	B	ア 特進・体育コースともに、学力検討委員会を開いて、職員の共通理解のもと、指導を行っている。 イ 中高一貫教育を目的とした年間計画に沿って実施し、意識づけさせている。 ウ KJHとの連携のための、より綿密な計画を立てている。	ア 特に体育コースの中高一貫には、鹿児島城西高校の更なる連携が必要である。詳細な計画を踏まえ、さらに進展させていくことが望まれる。
		②キャリア教育を充実させるため、職場体験学習等が活用できているか	A	ア 職場見学・企業研修・環境学習や農業実習など、職場の協力も得ることができており、幅広い業種・分野のものを提示・活用できている。	ア 事前・実施・事後指導。特に事後指導の更なる徹底を心がける。
四生徒募集	生徒募集	①定員確保のための活動ができているか	A	ア 企画広報部を中心に定員確保のため、新たなイベントの設定や各種媒体にも工夫がみられた。また、今年度は出張講座などの依頼も回復し、積極的に取り組んでいる。 イ 本校に興味関心のある生徒・保護者に、説明会などを通じ丁寧に説明を行った。部活動と、進学実績をうまく使ってきている。 ウ 塾との連携もうまくいっており、学校や塾以外にも様々な場所（卒業生等）へ訪問して、主体的に取り組んでいる。	ア 多くの地区から専願受験者を出すために、教員同士の情報交換を積極的に行う必要がある。 イ 離島からの入学率を上げるために、どうすれば良いか検討が必要である。
		②退学者を出さないよう努めているか	B	ア 生徒が気軽に声をかけられるように、師弟同行などを通して心がけている。 イ 各学年・学級、定期的に教育相談や個別面談を実施している。 ウ 中高別の打ち合わせなどをこまめに行い、情報の共有に務めている。	ア 中1ギャップを少しでも和らげることが必要。 イ 退学者が出た場合、その都度問題点を整理する必要がある。 ウ 普段からの面談などを通して、問題や悩みが小さいうちに解決できるように、早期発見に努める必要がある。